

Paris 協定と新ウイルス禍－資本主義社会の多重課題と統合的解決策

Paris Target and Green Recovery from Covid-19 - Unified Policy to Sexlemma of Capitalism

○外岡 豊*
Yutaka TONOOKA

1. はじめに

Paris 目標達成に残された Carbon Budget は8年余と言われ、日本に大型台風が頻繁に襲来する状況は実は2050年目標では手遅れで本当は2030年排出ゼロを達成しなければならないことを意味しているのだろうか Great Acceleration 工業生産消費等の加速度的増大が Anthropocene 人新世、Capitalcene 資本新世という地質時代区分を創出させたように、気候変動問題は行き過ぎた経済活動の結果であり、資本主義経済の行き詰まりと不可分の深刻な問題であると認識して来たが、そこに新型コロナウイルス禍が加わり深刻さの度合いが急増したかに見える 気候変動を経済・資源・環境の Trilemma、同時解決困難課題とする見方があるが、そこにウイルス禍が加わりより多要素同時解決が迫られ、Quattrolemma になったと言えるが、それは既に更に深刻な課題として顕在化して来た米中世界覇権争いに代表される国際政治の難問も併存しているので実は Quinquelemma というべき事態に直面している 新型コロナウイルス禍は世界的には日本とは桁違いの死亡者数でなお進行中であるが、日本におけるこの問題は問題構造が全く異なると見ている それはウイルス禍対応でより顕在化した日本の政策不全の深刻な事態である そこで本報告では表 1 に示す六重苦問題 Sexlemma を検討課題とする

2. 解決策-統合的対処

これらの多重苦問題は資本主義経済、蓄積指標と化した Money の弊害が人も地球も破壊している事態から派生したものであり、その解決には表 2 に示すような統合的対処により多重な問題を一挙に解決する根本策が有効であり Triple-Win な同時解決策が期待される

EU 議会では European Green Deal を中心に据えたウイルス禍復興計画が早くも討議されており、長期投資額も提示され、それを具体化する重点分野として、持続可能なモビリティ、再生可能エネルギー、建物の改築、研究とイノベーション、生物多様性の回復とサーキュラーエコノミー等の投資拡大が検討されていると言う

Paris 協定の排出削減目標達成は困難に見られているが、技術的改善努力の範囲内で排出削減を考えていた京都議定書の時代から一変して、その排出削減を実現するには経済社会そのものの根本的な変革が不可欠であり、それは若い世代の旗手 Greta Tunbroug の厳

表 1 多重困難課題

三重苦	3Trilemma 経済・資源・環境	経済危機,資源枯渇と争奪,気候変動,熱帯雨林破壊,海ブラ汚染
四重苦	+感染症 4Quattrolemma	新・コロナウイルス禍,マラリア,エイズ,結核他既存感染症,X病原体
五重苦	+国際政治 5Quinquelemma	米中覇権争い,難民,イスラム圏内戦,新疆ウイグル,人種差別
六重苦	+政策不全 6Sexlemma(日本で)	首相官邸政治,国会不全,行政非効率率,マスコミ無力,社会の硬直化

* 埼玉大学名誉教授 Emeritus Professor Saitama University
E-mail: ytonooka@gmail.com

表 2 統合的解決策

Paris協定達成	当面の人類共通目標として2050年GHGs排出ゼロ接近を目指す
SDGs	多面的社会問題の総合改善
Planetary Health	人類と地球の健康・総合解決=含微生物との共存
脱成長経済	EUと主要国のGDP拡大追求政策から持続可能社会構築への路線転換
脱巨大都市化	巨大都市に金・人・物が集中する空間構造から自立分散型へ転換開始
脱国家権力	市民主導サブ国家力構築 例：世界市民寄付で難民,クルド人等支援
ウイルス禍復興計画	Post-Covid-19 Green Recovery Plan 早急討論と長期展望摸索
衣食住と健康の基本回帰	政治経済状況に翻弄されない生活の基本に立ち返る

しい指摘を待つまでもなく、各国政府がいまだに追い求めている経済成長から脱却しなければならないこと、世界市場経済を形成している企業利益追求(ビジネス)活動の経営管理の場である巨大都市への人、金、物の集中も中心的な再考の対象であることも意味している

SDGs は目標が多岐にわたる一方で達成期間が短いが次の30年に継続延長される前提で取り組む総合課題であり、持続可能社会に向けた様々な多方面の課題解決努力を俯瞰評価する機会を提供する **Planetary Health**^{*a} は地球と人体の健康を最大級の地球と最小規模の微生物とその中間規模存在の人体を統合的に扱って見えて来る新しい地平から全体性を回復する摸索である この基礎はフラクタル幾何学、部分と全体の相似、古代仏教の曼荼羅にも映し出された宇宙の基本構造認識であり、ウイルスとの共存という Pandemic の根本解決に向けた本道の摸索である 直面する多重苦の解決にはこのような統合接近が有効である

貨幣 Money は紀元前660年から使われ、アリストテレス (BC3)、大プリニウス (AD1) は共に交換手段が富の蓄積目的に転化し欲望の無限化を招き社会と環境を破壊するだろうと予言していた それは20世紀後に世界大恐慌、リーマンショックとなって現実化した

今回のウイルス禍は「危機の時代」^{*b} に追加された危機であると神野直彦は指摘する 世界市場経済は世界的な航空交通網と広域交易長距離物流で成り立っているが、それがウイルス禍の世界的な蔓延をもたらした Paris 協定目標達成には脱経済成長、脱巨大都市化が不可欠であるが、それはウイルス禍危険回避からも求められ、見かけ多重問題の同時早期解決への圧力が強化されたと見る 新ウイルス禍は欧州とアジアでは事情が異なり、日本での問題は感染それ自体より間違った政策の副次的被害者災が深刻であり、政治機能不全、行政非効率、社会の硬直化に対処しなければ上記多重課題解決の見通しが立たない この状況下においては衣食住と健康に関する正しい知識を得て生活することが肝要である

注

*a: 國井修：朝日新聞2020.3.25, 15面

*b: 神野直彦：「危機の時代」と財政の使命世界2020.7, 88-96p、「人間と人間の絆が寸断され、友人や隣人との交流が姿を消しつつある「社会的孤立」現象が生じている国家原理主義の『危機の時代』に追加的にコロナ危機が襲ったと理解すべきである」